

## 石にせむるつゆ

2年 K・ーくん

「せし、大すきなお母さんがとつげたをいなくなりましたら、どうなるだろう。」

ほくはお母さんが大すきです。お母さんはいつもでシツとしていて、でも時々もやそじです。もしお母さんと会えなくなったら、とてもかなしい。ほくもかえでくと同じように友だちや家族をへんと話せなくなると思いたい。

かえでくんのお母さんと同じように、ほくも石や化石、きょうりゅうにとてもきょうみがあります。ほくの住むたんまけんには自せん史はくぶつかんがあり、大きなきょうりゅうの化石を見てこつふんしました。六千六百万前にきょうりゅうがげつめつしたことをきょうりゅうや化石、いん石についてのお父さんの話はとてもおもしろかったです。

この本をよんで強く心にのこったのは、お父さんの「すべての生命は、石から生まれて石にかえっていく」といっていることです。地きゅう上の生き物が石となり、岩や砂にすがたをかえながら地きゅうを形づくるように、地きゅうそのものの歴史が石のなかにやどっているようにかんじました。ほくはさいきん歴史にきょうみがあり、いろいろな本を読んでいます。しんでしまつて会えなくなると思つとかなしいですが、いろいろな人や生き物が石にすがたをかえて地きゅう上にのこりつづけるのだとじたら、さびしさが少しやわらぐような気がします。

そして、お父さんがはなしてくれた、お母さんとの化石の森へのりゅうや、お母さんとの思い出はとてもすてきな思い出です。人はしんでしまつてもいろいろな思い出となって人の心の中で生きつづけるのだと思います。きつとかえでくんのお母さんは大すきな石になってかえでくんの前にあらわれたのだと思います。そしてそのことはお父さんにとってものれしかったのだと思います。ほくもいつか、アリンナしゅうにあるという化石の森に行ってみたくなりました。